

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 23 年度

事業所番号	2799100082		
法人名	株式会社 のどか		
事業所名	グループホームのどか三津屋		
所在地	大阪市淀川区三津屋中3丁目1番12号		
自己評価作成日	平成 23年 9月 15日	評価結果市町村受理日	平成 23年 11月 24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaikokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2799100082&amp;SCD=320&amp;PCD=27">http://www.kaikokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2799100082&amp;SCD=320&amp;PCD=27</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 23年 10月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着サービスとして外部交流に力を入れています。ボランティアの方々を施設に招き、町内の催しに参加することで中にも外にも交流を持てるような体制づくりをしています。まだまだ機会が少ないので利用者様の生活意欲の向上にまでつながってないかもしれないので少しずつでも外部交流の機会を増やしていきたいと考えています。クリスマス会や花見、夏祭りなど季節の行事はもちろんのことプラスアルファの催しを考えていきたいと思っています。保育園との交流は利用者様からも喜びの声が多く聞かれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

株式会社のどかが、大阪市内の新立地に開設して1年のホームです。管理者や職員の努力によって、運営システムをほぼ確立させており、地域ともすでに日常的に交流ができています。管理者は自治会班長として地域振興会の会議に参加し、利用者も地域の行事に参加しています。地域の保育園児と相互に訪問して交流し、民謡や三味線、園芸のボランティアが訪れて利用者と楽しんでます。利用者は家族的な雰囲気の中で、医療的な不安もなく、ゆったりとした表情で過ごしています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者様がご自分の人生を自分らしく希望のある生活が送れるよう優しい心を持ってお手伝いさせていただきます。」という事業理念のもと日々業務を行っています。	「利用者様がご自分の人生を自分らしく希望のある生活が送れるよう優しい心を持ってお手伝いさせていただきます。」を理念と定め、明示しています。定例のスタッフ会議、勉強会、行事・地域密着・リスクマネジメント等の各種の委員会や毎日の業務を通じて方針を共有し、開設後1年で運営のシステムがほぼ確立し、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう家族、地域の人たちと共に支えています。	今後は職員間で話し合い、地域密着型サービスの意義や役割をふまえた表現を盛り込んだ事業所理念を作り、家族、地域住民と共にその理念に沿った介護サービスの実践に取り組まれてはいかがでしょうか。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	民謡、三味線、演芸のボランティアを定期的に受け入れています。その他に町内会の催しの参加、管理者の町内会の総会参加などを行っています。8月より近隣の保育園との交流も開始しました。	新立地に開設後1年しか経過していませんが、地域とはすでに日常的に交流ができています。管理者は自治会班長として地域振興会の会議に参加し、利用者も地域の行事に参加することができています。地域の保育園児と相互に訪問する交流があります。民謡や三味線、園芸のボランティアが訪れて利用者と楽しんでいます。	今後更に地域との交流を深めるため、地域の老人会や女性会に働きかけられてはいかがでしょうか。また、ホーム主催で地域の介護研修会を実施したり、介護相談所を開くなど、ホームが地域福祉の拠点になるよう目指してはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	管理者土井が淀川区のグループホームの代表として認知症高齢者支援ネットワーク事業に参加しています。しかしその中でも「グループホームが地域で何が出来るか」というのは課題になっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回ペースで運営推進会議を開催し、地域の方との交流の場として良い雰囲気で行えています。毎回現状と今後の取り組みを発表し、アドバイスを頂いています。	運営推進会議は地域包括支援センター職員、地域住民代表(民生委員)、家族、利用者の参加のもと、おおむね年6回のペースで開催しています。会議では事業所の活動状況や行事、利用者の生活状況、保育園児との交流などの報告を行い、地域との関わりの深め方や防災訓練での地域との協力関係など、今後の取り組みについて話し合っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の利用者様が多いこともあり、定期的に報告、連絡、相談を行っています。	市の担当職員とは普段から連絡をとり、相談や交流を図っています。管理者は行政の認知症高齢者支援ネットワーク事業やグループホーム連絡会に参加しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>                      代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束は行っていません。                      玄関の施錠は行っていますが、外出希望のある利用者様にはスタッフの付き添いのもと外出して頂いています。</p>	<p>身体拘束のないケアを目指していますが、玄関扉については施錠していません。しかし外出願望の強い利用者には、職員による付き添いや、見守りで対応しています。</p>	<p>利用者や家族への心理的拘束感を軽減するため、安全面に配慮しながら、日中の可能な時間帯だけでも鍵をかけないよう工夫し、電子ロック操作盤横に暗証番号を表示するなどの方策の検討をすることが望まれます。</p>
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>                      管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待はありません。                      勉強会にて高齢者虐待防止法について勉強し、身体的虐待はもちろん言葉の虐待があることもスタッフに伝えています。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>                      管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域包括支援センターの職員より権利擁護についてお話を伺いましたが、成年後見制度について勉強会は実施できていないので早急を実施できるよう取り組んでいきたいと思えます。</p>		
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b>                      契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に内容を説明させて頂き、不明な点はいつでも相談に応じれるような体制づくりをしています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や電話のやり取り、意見箱の活用などご家族様の意見を聞き、行動に移す取り組みを行っています。</p>	<p>家族との面会時には利用者の生活状況や連絡事項を伝え、健康や安全に関わる事項については、その都度家族へ電話で報告しています。家族には毎月、利用者の健康状態や生活状況、行事予定、連絡事項などを担当職員が「生活状況表」に記入し、写真を中心にした「のどか新聞」とともに送付しています。</p>	<p>家族との会話の機会を更に増やすため、介護計画見直し時のサービス担当者会議に家族の参加を要請したり、家族が参加する行事を増やしたりするなど、検討されてはいかがでしょうか。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月のスタッフ会議だけでなく、定期的にスタッフの意見を聞ける状態を整えています。スタッフからも意見を伝えてくれる場面も多くあります。</p>	<p>職員は、定例のスタッフ会議や委員会、業務の改善事項や課題について提案し話し合っています。管理者はまた、この1年間で職員の異動が多かったことから、職員とのコミュニケーションに力を注いでいます。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>普段の業務だけでなく、委員会や居室担当制により各スタッフの長所が活かせるような環境づくりをしています。パートスタッフにも居室担当や委員会を担当してもらい、自分の役割を意識してもらっています。</p> <p>給与水準の関しては処遇改善交付金等。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会を実施し各人の能力向上に取り組んでいます。 常勤パート問わず多くのスタッフが参加してくれています。 これからは外部研修の案内も定期的に行っていこうと考えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者土井は淀川区グループホーム連絡会に定期的に参加させて頂いています。 スタッフに関しては数名認知症サポーター養成講座を受講済み。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時は本人や家族からの話や情報を大切にして進めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時など何か動きがある時は、必ず事前に家族様に報告、連絡、相談行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族様としっかりしたお話をを行い、ニーズにあった対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが一方的に全てしてしまうのではなく、ご本人にして頂けることを日々観察しながらして頂くように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にあった対応をする為には家族様の協力は必要不可欠だと考えていますので良い関係が築けるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面接時や入所時にご本人の習慣や大切にしてきたことを把握し、可能な限り継続できるよう支援させて頂いています。	現段階では利用者の馴染みの人や場所の聞き取りが不十分であり、職員間で情報の共有化するための記録・把握には工夫の余地があります。	全職員が共有できる情報にするために、各利用者の馴染みの人や場所を改めて聞き取り、記録することが期待されます。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性も考慮し、席替え、配置換えで対応しています。オープンより1名2Fから3Fへ移動しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時の相談や退去後の相談にも積極的に応じるようにしています。 退去に関しては特に今後不安を持たれる家族様が多いので、状況に応じた支援をさせて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の要望に関しては可、不可だけではなく、理由や期限的なことも含めお応えさせて頂いています。	現段階では利用者毎の思いや意向の聞き取りが不十分で、職員間で情報の共有化するための記録の整理や把握には工夫の余地があります。	全職員が共有できる情報にするために、各利用者の現在の思いや意向を改めて聞き取ることが期待されます。例えばセンター方式の「私の姿と気持ちシート」等を活用して、研修をかねて家族と全職員で作成に取り組まれてはいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接や日常生活の会話の中での把握、家族アンケート等で生活歴の把握に努めていますが全スタッフに徹底という形まではとれてないのが現状です。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、日報、申し送りノート等で一人一人の情報を共有し、現状の把握に努めています。記録だけでなく口頭での申し送りも行うよう徹底しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>日常生活の中で出来る限りの情報を集め、課題やニーズについて定期的に話し合いをする機会を設けています。スタッフ間だけでは解決が難しい課題は会社の会議で相談したり、ご家族様に相談し、アドバイス頂きながら対応するようにしています。</p>	<p>介護計画は定期的には3ヵ月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。職員には「ケアプランサービス一覧表」にて介護計画の援助項目内容を徹底し、「生活記録」に毎日のモニタリング結果を記録し、担当者が毎月、援助項目毎に評価表を作成しています。計画作成担当者はカンファレンスで議論し、モニタリング結果をもとに介護計画の見直しにつなげています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別の記録についてはケアプランのサービス内容を明確にし、記録として残せるような取り組みを行っています。また月に1回ケア内容評価表を記入し、介護計画の見直しに活かすようにしています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人の希望を大切にしながら、柔軟な考えでサービスの多機能化に努めています。すぐには実現できないことでも可、不可についてや期限的なことについてなるべく早く返答するよう心がけています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民謡、三味線、演芸などのボランティアの他に近くの保育園との交流も行っています。」地域の催しには町内会の運動会の見学に行かせて頂きました。来年はもっと町内の催しに参加したいと考えています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族様の希望をもとにかかりつけ医とは往診以外に定期的に連携を取り合っています。緊急時の受診や病院相談にものって下さっています。	医療連携をしている協力医療機関のかかりつけ医師による週一回の往診診療を受けています。歯科、眼科についても定期的に往診診療を受けています。協力医療機関と連携し、緊急時対応についての体制も整備されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関との連絡をしっかりと取りながら緊急時でも適切な処置が受けられるよう支援させて頂いています。往診時は医師の処置とは別に注射や巻き爪の利用者様の処置をして下さっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後は、家族様、ケースワーカー、主治医、地域医療連携室としっかりと連絡を取り、利用者や家族様が不安にならないような対応に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合の指針については入所時に説明させて頂いています。</p> <p>入居後の変化は家族連絡にて状況を伝え、早めの対応を心がけています。</p> <p>看取りについても事前にかかりつけ医とともに家族様の意思を確認し、希望に沿った対応が出来るように努めています。</p>	<p>ホームは看取り実施の方針で、家族の意向確認もしています。現在ターミナル対応をしている利用者がいます。今後も利用者が重度化した場合、可能な限りホームでの生活が継続できるよう、サービス開始の早い段階から利用者や家族の意向を聞き、かかりつけ医と連携を図っていきます。状況の変化に合わせてその都度、利用者や医師、看護師、家族と話し合いをしながら対応していく予定です。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>7月に消防士の方を招き、普通救命講習を施設内で実施して頂きました。急変時のマニュアルや事故発生時の対応は勉強会で勉強しましたが、実践力に関しては課題が残る部分だと感じています。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害のマニュアルの作成は完了していますが定期的に見直しが必要です。町内会に参加させて頂き、名簿もあげているので緊急時は町内会の方にも協力を得れるようお願いしています。</p>	<p>災害に備えるマニュアルを作成し、4月に消防署の指導のもとで避難訓練を実施しています。年内にもう一度、避難訓練を実施する準備をしています。災害時の飲料水と食料品の備蓄を実施しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関しては個人差があり難しいテーマだと考えています。 接遇と認知症に対する知識の両方を兼ね備えてこそ適切な声掛けが出来ると考えているので、定期的に勉強会を開催しレベルアップを図りたいと考えています。	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう職員の言葉かけや態度は明るく丁寧であり、やさしい雰囲気です。職員採用時に、個人情報の取り扱いについて法人と書面を取り交わしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアプランに本人目線のニーズをあげることを意識し、全員でそのプランにそったサービスが出来るよう努力しています。また居室担当制によりスタッフ自身も特に思い入れのある利用者様が出来るよう取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様1人1人を18名の利用者の中の1人ではなく、大切な1名の利用者が18人いるという感覚で仕事させて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛を整えたり、衣類を整えたり程度の整容は行っていますが、その人らしい身だしなみまではいっていないのが現状なので、今後そういった部分も考えていきたいと思っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	利用者様に手伝って頂ける部分のお 手伝いをして頂きながら食事作りをし ています。 食事形態もご本人にあわせた物を提 供させて頂いています。	業者から取り寄せた食材を職員が調 理しています。利用者は食事準備、後 片付けなど得意な分野で参加していま す。職員は利用者の食べ方の混乱や 食べこぼしに対するサポートを行い、 和やかな雰囲気作りをしています。誕 生日会では利用者もおやつ作りを楽し みます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	食事摂取量や水分摂取量のチェックを 行いバランスよく栄養を摂取できるよ う心がけています。食事量が低下してい る方は食事の工夫やかかりつけ医に 報告、相談行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアと月4回の歯科往診で 口腔内のチェックを行っています。 自立している利用者様も口腔ケアをさ れているかチェックし、適度な声掛けを 行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	自尊心やプライバシーに配慮した支援 をさせて頂いています。 排泄チェック表で一人一人の排泄パタ ーンの把握に努め、排泄リズムに合わ せた声掛け、見守りを行わせて頂いて います。	排泄記録をとり、利用者一人ひとりの 排泄のパターンや習慣を把握し、声か けや前誘導を確実に行うことで対応で きています。現在大半の利用者は自 立できています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを徹底し、食事、水分、運動で便秘予防に努めています。 自立されている方はご本人の訴えやお腹の張り具合などで判断させて頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は固定せず、最低週2回入浴出来るよう声掛け、支援させて頂いています。体調や本人の気持ちを優先しつつ、適度な間隔で入浴して頂いています。	利用者は週に2回の入浴を楽しんでいます。	今後は、利用者が週に3回はゆっくりと寛いで入浴できるよう、体制整備と雰囲気作りが望まれます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の利用者様の状態や生活習慣を確認しながら、その都度状況にあわせた声掛け、見守りをさせて頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の内容をファイリングし、いつでも薬表にて確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事関係のお手伝いをケアプランに盛り込みスタッフも意識出来るようにしています。 散歩や買い物、誕生日会やボランティアの受け入れ等出来る限り利用者様に楽しんで頂けるような時間提供を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に可能な限り応えられるよう心がけています。 この一年間行事以外の外出企画が少なかったので来年は利用者個々の外出を少しでも増やせるように取り組んでいきたいと考えています。	日常的には近隣の公園に散歩に出かけ、週一回の買物や、地域のふれあい喫茶にも行っています。初詣や季節の花見もあります。今後は個別の外出にも取り組む予定です。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある場合は金銭預かりの同意書に記入して頂き、お小遣い程度の金額を利用者様が所持し使えるように支援させて頂いています。管理者が所持し希望にあわせて使われる支援も行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望がある場合には対応させて頂いています。頻回に希望される方には家族様の了承も得ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に安全な環境整備を心がけ、利用者様にとって安心できるスペース作りに取り組んでいます。	新築されたホームは明るく、清潔です。調理場を介してつながった二つのリビング兼食堂は少し手狭ですが、利用者同士や職員との距離が近く、お互いに声をかけ、会話も弾みやすく利用者が集まりやすい家族的でアットホームな雰囲気となっています。食卓には季節の花が飾られています。壁には季節感のある花や果実を表した手作りの絵、行事写真、のどか新聞が貼られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のペースにあわせて、1日をすごして頂いています。 移動に常時エレベーターをされる為安全に配慮した見守り、声掛けをさせて頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具配置など利用者様の希望を取り入れ、居心地よくすごして頂けるよう声掛け、見守りをさせて頂いています。数名入居後にタンスを購入された利用者さまもいます。	居室には整理ダンスや衣装ケース、外出着と帽子的の掛けられた衣装掛け、椅子、仏壇、テレビ、書籍、家族の写真、人形、時計などがあり、利用者にとって居心地のいい空間になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部は安全で自立した生活を送りやすい作りと考えています。</p>		